

活 用 事 例	兵庫県朝来市立山口小学校	國眼厚志教諭
活用事例タイトル	i P a d を用いたデジタル教科書遠隔授業の実践	
対象授業科目/活動	国語、算数、理科、社会	
授業または活動の概要(目的、実施時期、授業の場合教科名や単元名、対象学年、参加人数、ICTの使用局面など)	<p>デジタル教科書を活用する際に、通常の電子黒板だけで無く、i P a d にウィンドウズ画面を転送させて、手元で操作し、机間巡視を行いながらページを進めたり、音読をさせたりする。</p> <p>国語での活用が最も多い。国語では「主人公の気持ちがわかるところに線を引きなさい」と言うたぐいの発問が多い。児童は教科書に線を引くが、それがどこになるかは「〇〇ページの〇〇行目です」と言うよりも、実際にスクリーンに引いた方がよくわかる。しかし、電子黒板が導入されていない教室ではとても行いにい。また黒板まで出てくるよりもi P a d のようなタブレットに直接描く方が時間も少なくて済み、効率が良い。他にも問題で「○をする」「線でつなぐ」などの操作を行うことが多いが、それもi P a d 上で行えば他児童にもわかりやすい。文字記入、音読ボタンのオンオフなど活用はさらに広がると考えられる。他教科でもページ送りだけで無く動画の再生、一時停止など活用範囲はとても広い。</p>	
ICT 活用により期待できる効果 ICT 活用のねらい	<p>授業によっては教師は教壇に立つだけで無く、児童の机の間を巡視することもある。ノート指導、発問に対する答えの確認、作業の様子を見るなどがある。また、行儀の悪い児童や、理解の難しい児童についてはできるだけそばについて授業を進める方が他児童への影響も最小限にとどめられる。その際、スクリーンに映し出されているデジタル教科書の画面を進めたり、音声や動画を流す際、いちいちパソコンまで戻るのでは無く、手元のi P a d で操作ができれば、巡視を続けられる。</p>	
評価、振り返り(活動の評価や児童・生徒の声など)	<p>話題性の強いi P a d を授業で活用することに児童は大喜びである。指でピンチアウトし、ボタンを大きくして操作したり、線を引いたりする作業は児童の方が早く上達する。意欲も増すとともに机間巡視が効果的効率的に行え、授業はスムーズに進む。</p>	